

平成29年度 地域懇談会 報告	
日 時	平成29年11月14日（火） 午後6時から7時30分まで
場 所	日高交流センター
出席人数	(1) 市 民 6人 (2) 事務局 教育長、教育部長、学務課長、学務課課長、 適正配置推進室職員 計11人
内 容	(1) 教育長あいさつ (2) 学校適正配置の検討趣旨について、教育部長から説明 (3) 学校適正配置基の検討状況について、事務局から説明 (4) 意見交換
意見交換	<p>(質問) (田尻学区)</p> <p>統合の理由としてクラス替えを挙げているが、クラス替えは毎年行うことが前提か。</p> <p>統合する学校が何校になるか、現在の目安はあるか。</p> <p>(事務局)</p> <p>必ずしも毎年のクラス替えを前提としているものではない。クラス替えができる学年の規模を維持していくことが、社会性を育むためにも必要ではないかということで基準とした。</p> <p>現在は、個別の学校の統合などについて検討していないので、校数の目安などはない。基準というより目安と考えていただければいいと思うが、将来に向けて、ある程度の規模が確保できるように具体的な計画作りを進めていく。地域懇談会などでいただいた意見を加味して基本方針を策定し、その方針に基づいて具体的な個別の計画を策定していきたい。</p> <p>(教育部長)</p> <p>できれば毎年クラス替えできるようにしたい。いじめの問題などもある。</p> <p>(意見) (日高学区)</p> <p>クラス替えが利点として書かれているが、必ずしも利点となるとは限らない。子どもの状態によって、わざわざ小規模校を選択する人もいる。全てを2学級以上にするということには、あまりメリットはないと思う。</p> <p>統合によって学区が広がり、地域との交流が難しくなる。子どもにとって本当にそれが良いことなのか。</p> <p>統合によって教員が増えるという理屈もどうなのか。そもそも先生の負担が減るように配置されるべきで、配置基準が少なすぎる。法律を変えることは難しいだろうが、必要などころに必要な教員が配置できるように教員配置の基準を変えるべき。2人が4人になるというなら分からなくもないが、1人が2人になるというのが統合の理由になるのはどうか。</p> <p>(事務局)</p> <p>小規模校を否定するものではない。小規模校には小規模校の良さがあることは承知している。</p> <p>教員の配置については、国・県の基準に沿いながらも、少人数で指導で</p>

きるように工夫をしている。

(教育長)

小さい学校にメリットがある、いろいろな学校があったほうが良いとおっしゃったが、自由に学校を選べた方が良いということか。そのように考える理由があれば聞かせてほしい。

(質問) (日高学区)

小学校2年生から3年生に進級するとき、人数の関係で3クラスになれず、2クラスになってしまった。先生の目が届かなくなり、いじめが起きた。ある子に集中してしまい、教室に入れなくなってしまった。少人数のところであれば入れるが、人数が多い場所には入れなくなったという話を聞いた。選ぶ幅があった方がいいのではないか。

毎年のクラス替えでは落ち着かなくなる子どももいる。2年間同じクラス、同じ先生というのも良いところがある。悪いところもあるかもしれないが。クラス替えはメリットばかりではないと思う。

(質問) (日高学区)

児童生徒数だけで考えるのはいかなものか。

地域活動との関係についての説明はないのか。

クラス替えの根拠を示してほしい。

統合で校区が広がって、通学が遠くなることのデメリットをどのようにクリアするのか。仮に3kmになったら小学校低学年は難しい。町場と山道の3kmは違う。そのような細かいことが適正規模の中に見えてこない。

人口の減少はもっと進むのではないか。24%減では済まない。行政の頭の中には企業がまだあると思っているから、このような数字になる。大規模な事業所が移転することで、地域の人口が大きく減った事例もある。学校をいじったら2度目はない。40年かけて作ってきたコミュニティが、統合によって壊されてしまう。学区で活動しているものとしては、その説明がほしい。

(事務局)

数のみで判断する訳ではなく、一定の目安として検討を進めていく。通学の距離、方法、安全確保、子どもたちの精神的な負担などを考慮していく。現状の通学距離では、2.8kmが最長となっている。文部科学省の目安では、小学生で4km、中学生で6kmとなっているが、小学校低学年が長い距離を歩くことは難しいと思っている。

地域活動との関係も承知しており、学校の再編が影響することは理解しているので、市民活動課を始め、単会、コミュニティ推進協議会との協議も進めていく。学区の変更がそのままコミュニティの区域の変更とは考えていない。

教育委員会の立場では、子どもたちの学習環境の整備という視点から考えているが、計画を具体化していく中では他部門との協議も行っていく。

児童生徒数の推計は、学校ごとについても詳しく見ていく必要があると思う。また、企業の動向も加味した推計を行い、それを踏まえた検討も必要だと思っている。

クラス替えについては、検討委員会での協議、アンケートで保護者や教職員からいただいた意見、地域懇談会でいただいた意見などを総合的に検討した結果である。

(教育部長)

クラス替えについては、人間関係を固定化させないためだ。いじめなどの学級内の問題にもフレキシブルに対応しやすいと考えている。

コミュニティとの関係については、内部でも協議しているが答えは出ない。まずは、子どもにとって、どのような環境が良いのかという視点で考えていく。いろいろな影響が出ることは承知している。今後、コミュニティ自体の区域をどうするか、変えられるのか、変えられないのかの議論も必要だろう。

我々も、将来もっと人口が少なくなってしまうことを心配している。「もっと早く検討を始めていれば良かったのに」と後悔しないために、議論を始めた。議論が始まったら、すぐに統合に動くということではない。合意が必要だと思っているので、時間がかかるだろう。大きい学校がいいのか、小さい学校がいいのかの結論は出ない。

(事務局)

クラス替えについては、環境が変わることで新しい人間関係を築いていく力を付けられることがメリットと考える。

(教育長)

クラス替えをするときは、一人一人の子どもの1年間を見ながら考えており、その子その子に応じた対応をしている。これからも柔軟な対応ができる環境を作りたいと考えている。学級人数の基準についても、今の制度では変えられないが、そのような御意見があったということはつなげていきたい。

各地で地域懇談会を行っているが、それぞれ様子が違っている。いろいろな立場から、いろいろな意見をいただいている。子どものことを考えながらのやり取りが大事だと思っている。

(教育部長)

別の会場で、参加しているお父さんからお子さんの話を伺った。9年間同じクラスだと不満を感じる子どもと、仲良しの友達とずっと一緒に良かったと思う子といる。子どもたちもいろいろ感じていると、地域懇談会行って、つくづく感じた。中学校に上がるときに変化を求める子どもさんもいる。

(意見) (日高学区)

以前は2年ごとに学級編制(クラス替え)をしていたが、最近は1年でクラス替えしている。

個人的には、子どもたちは長い時間をかけて人間関係を作り、深め、変え、広げると考えている。1年でつながりはできるが、深まらないうちに別れてしまう。深まらなかったという課題を持ったまま進級し、同じことの繰り返しになる。問題があったら替えれば良いという訳ではなく、学級の中で解決する時間が必要だ。学級編制の在り方には、課題があると思っている。一概に、クラス替えが良いとは言えない。

教職員へのアンケートでは、一般的には「小学校3学級」「中学校5学級」くらいが良いのではないかと思い、そのように回答した。個々の学校で考えると、その学校の規模が適正とか不適正とかいうことではないと思う。今、1学級の学校の子どもたちを、どのように育てていくかという中身の問題だ。今ある学校を、どのようにしていくかを考えてほしい。それ

ぞれの問題を、学校現場や地域、PTAから吸い上げていけば、うまく進むのではないか。

最近、日立の町が寂れてしまったと実感している。日立をどんなまちにしていくのか。日立の学校で子どもを育てたいと思えるような学校にしてほしい。まちづくりとのすり合わせもしてほしい。

いじめがあったら、そのまま過ごすのかというが、いじめをなくすためにどうしたらいいのかともう1年がんばってほしい、がんばりたいと考える。それで全てが解決する訳ではないが、いじめがあったら、その子を離してあげることも必要だけれど、いじめがあってもその子と共に生きて行けるという人間関係を作ることも学校現場に求められると思う。

学級の人数を減らしてほしい。今の子どもは30人でも多い。2学級になれそうなところがなれなくて、学級の人数が増えることは子どもにとってもストレスで、いじめなくてもよい子がいじめてしまう。それは仕方のないこと。日立市の予算を使ってでも、学級の人数を25人にするとか、教員の忙しさを補えるような配置の方法を考えてほしい。

人数の多い学校に行けなくなってしまった子どものために、小規模校の楽しさも残してほしいと思う。切磋琢磨できれば良いと思うが、数が多ければできるというものではないと思っている。

(意見) (日高学区)

地域の意見の吸い上げ方について。

もっと吸い上げられる方法を考えてほしい。このように場を設定するのも良いが、人の集まるところに行って意見集約してはどうか。

法律に基づかなければならないだろうが、日立市独自で緩やかに編制してほしい。学級の人数が多いと子どもたちにもストレスで、先生が目が届かなければ、いじめも起きてしまう。事務量の削減を考えてほしい。出さなくてはならない報告などもあるだろうが、「日立市は出さなくても良い」としてあげれば、先生方の気持ちも楽になるのではないか。子どもに集中できるようにしてあげてほしい。その方が親も楽になる。

各学校のデメリットを、現場から吸い上げてほしい。現場の意見を聞かなければ始まらない。

(意見) (田尻学区)

部活動の問題は大きい。子どももいない、指導できる先生もいない。先生の負担感の中には部活動も大きい。部活動の工夫をしてほしい。複数校でできるとか、専門の指導者の元で活動できるとか、社会教育の中でできるように。

(事務局)

意見を吸い上げる方法については、事務局としても反省をしているところであり、考えなければならない。

少人数教育については、県・市でも取り組んでいる。できるところから努力を続けていきたい。

教員の事務量削減についても、既に取り組んでいるが、まだ不十分である。

部活動も、外部指導者の導入などいろいろな工夫がされている。

(意見) (日高学区)

母校がなくなると、地域活動に力を発揮する人が少なくなってしまう。地域活動の中で「母校」は重要。

かつては、公民館での社会教育など、地域との連絡調整機能があった。市民活動になって、社会教育や家庭教育、高齢者についても行政が関わらなくなってしまったので、地域と行政との結びつきがなくなってしまった。高齢化も少子化も進む中で、行政としてどこが関わっていくのか。

母校をなくしてしまったデメリット、公民館がなくなって社会教育を担当する行政がなくなってしまったことを、どのようにカバーするかを検討に含めてほしい。

(事務局)

母校がなくなることについては、精神的にも辛いという声はほかの地区からも出ている。

学校と地域との新しい形に配慮しながら進めていきたい。地域の方にも、これまで以上に学校と関わっていただくための仕組み作りにも取り組んでいる。学校と地域が一緒になって、子ども達を育ていけるように考えていきたい。

以上